

## 生産コストDIは大幅に低下、資材高騰等による費用増加が重荷

### ～ 担い手農業者の設備投資マインドは引き続き高水準 ～

< 農業景況調査（令和4年1月調査） >

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業は、融資先の担い手農業者を対象に「農業景況調査（令和4年1月調査）」を実施しました。

今回調査では、定例の景況調査のほか、担い手農業者が抱える経営課題とその解決に向けた取組みについて調査しました。

調査結果のポイントは以下のとおりです。

#### < 農業景況 >

- 令和3年の農業景況 DI（▲29.6）は、前年実績から4.7ポイント低下し、マイナス幅が拡大しました。
- 令和4年の景況 DI の見通し（▲28.7）は、令和3年実績からほぼ横ばい（+0.9ポイント）で推移する見込みとなりました。ただし、畜産では、すべての業種で景況 DI が低下し、厳しさを増す見通しです。
- 令和3年の生産コスト DI（▲68.1）は前年実績から31.9ポイント低下し、大幅なマイナス値となりました。資材価格高騰等による費用の増加が重荷となっていることがうかがえます。また、生産コスト DI の低下は、特に畜産で顕著となりました。
- 「設備投資予定あり」の比率（46.3%）は、前年と比較して0.2ポイント上昇し、高い水準が続いています。また、「設備投資予定あり」と回答した先のうち、46.9%が昨年に比べ設備投資額が「増加する」と回答しており、農業の景況感が低下している中でも担い手農業者の設備投資に対する積極的な姿勢がうかがえます。

#### < 経営が現在抱えている課題とその解決に向けた取組み >

- 農業経営の課題は、「生産コストの増加」（71.8%）が最も高く、次いで「販売単価の低迷」（62.4%）、「労働力の不足」（29.0%）となりました。
- 経営課題の解決に向けた取組みは「効率化への設備増強」（49.2%）が最も多く、次いで「生産規模の拡大」（37.8%）、「人材確保、育成の強化」（28.4%）となりました。
- 経営課題の解決に向けた取組みの相談先は「JA（農協）関係」（60.8%）が最も多く、次いで「県・普及・市町村」（28.2%）、「日本政策金融公庫」（27.1%）、「税理士等の専門家」（23.4%）となりました。

■詳細は、添付のレポートをご参照ください。

# 農業景況調査（令和4年1月）

～農業の景況、経営課題とその解決に向けた取組み～

## ～目次～

I. 農業の景況	P3 ～ 8
II. 経営が現在抱えている課題	P9～11
III. 経営課題の解決に向けた取組み	P12 ～14
IV. 経営課題の解決に向けた取組みの相談先	P15

## ○調査概要

- 調査時期: 令和4年1月
- 調査方法: 往復はがきによる郵送アンケート調査
- 調査対象: スーパーL資金又は農業改良資金のご融資先のうち19,993先
- 有効回答数: 7,171先(回収率35.9%)

(内訳)

稲作(北海道): 721、稲作(都府県): 1,883、畑作: 606、露地野菜: 693  
施設野菜: 617、茶: 113、果樹: 353、施設花き: 192、きのこ: 81、  
酪農(北海道): 296、酪農(都府県): 296、肉用牛: 489、養豚: 253、  
採卵鶏: 103、ブロイラー: 98、その他: 377

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部(担当: 高田、米山) TEL: 03-3270-5585  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

# I. 農業の景況(景況DI、収支DI)

- ・令和3年通年の農業景況DI (▲24.9→▲29.6)は前年実績から4.7ポイント低下した。
- ・令和4年の見通し(▲29.6→▲28.7)は令和3年実績からほぼ横ばいとなったが、畜産は全業種で低下した。
- ・収支DIは果樹、施設花き、採卵鶏を除くすべての業種でマイナス値となった。特に養豚(47.0→▲43.1)は前年から大きく低下し、マイナス値となった。一方で、採卵鶏(▲40.6→14.7)は大きく上昇し、プラス値となった。

## 1. 景況DI

	23年 実績	24年 実績	25年 実績	26年 実績	27年 実績	28年 実績	29年 実績	30年 実績	R1年 実績	R2年 実績	R3年 実績	R4年 見通し
農業全体	▲ 7.9	13.2	▲ 1.4	▲ 33.7	16.8	20.0	21.2	▲ 11.1	6.0	▲ 24.9	▲ 29.6	▲ 28.7
稲作(北海道)	43.5	43.9	▲ 4.2	▲ 67.2	20.1	▲ 4.9	39.7	▲ 51.8	26.5	▲ 3.6	▲ 55.2	▲ 66.8
稲作(都府県)	13.1	36.2	▲ 10.2	▲ 71.0	▲ 3.8	23.6	10.3	▲ 10.7	11.4	▲ 33.4	▲ 55.9	▲ 39.9
畑作	▲ 19.1	1.6	▲ 27.6	▲ 5.3	35.2	▲ 17.6	34.8	▲ 22.7	31.6	▲ 32.3	0.2	▲ 19.8
露地野菜	▲ 14.0	6.7	15.1	▲ 15.7	14.3	14.7	7.5	▲ 3.4	▲ 9.3	▲ 32.8	▲ 21.4	▲ 11.5
施設野菜	▲ 15.7	19.9	15.6	▲ 8.4	20.3	26.3	15.0	▲ 1.4	▲ 22.4	▲ 28.1	▲ 32.3	▲ 12.0
茶	▲ 47.3	▲ 12.8	▲ 44.8	▲ 55.0	▲ 53.1	11.1	26.5	▲ 14.5	▲ 53.1	▲ 78.0	▲ 0.9	▲ 10.7
果樹	▲ 11.7	16.0	6.3	▲ 12.7	11.5	25.6	21.8	20.6	7.5	▲ 16.8	11.9	15.3
施設花き	▲ 38.8	▲ 8.0	▲ 2.8	▲ 34.4	▲ 5.9	11.8	▲ 10.6	▲ 13.7	▲ 20.2	▲ 40.2	5.8	4.2
きのこ	▲ 47.1	▲ 19.6	4.7	▲ 20.7	15.2	1.1	▲ 2.5	▲ 21.0	▲ 23.2	3.0	▲ 40.8	▲ 25.0
酪農(北海道)	▲ 26.9	▲ 2.2	▲ 9.4	▲ 4.1	55.9	57.6	44.8	25.0	30.3	▲ 19.3	▲ 32.8	▲ 54.7
酪農(都府県)	▲ 24.2	0.0	▲ 23.8	▲ 30.9	29.3	52.2	12.6	2.5	8.4	▲ 16.4	▲ 39.5	▲ 47.1
肉用牛	▲ 47.4	8.3	20.5	▲ 1.2	48.5	50.3	17.5	4.7	▲ 0.2	▲ 43.9	▲ 3.1	▲ 12.0
養豚	▲ 6.2	▲ 38.1	43.6	67.5	48.8	26.2	59.4	▲ 27.2	▲ 4.1	44.3	▲ 36.4	▲ 43.0
採卵鶏	8.4	▲ 40.6	43.9	28.6	71.0	40.8	32.7	▲ 61.2	▲ 38.9	▲ 43.8	22.6	▲ 58.3
ブロイラー	▲ 6.3	▲ 1.3	▲ 22.4	10.4	51.9	27.4	55.3	15.9	14.7	6.4	▲ 2.1	▲ 20.4

※景況DIは農業経営が「良くなった・良くなる」とする構成比から「悪くなった・悪くなる」とする構成比を差し引いたもの

## 2. 収支DI

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年
農業全体	▲ 7.2	12.5	▲ 7.0	▲ 39.7	14.2	16.7	14.7	▲ 20.1	▲ 1.5	▲ 27.6	▲ 35.1
稲作(北海道)	54.7	44.7	▲ 14.4	▲ 72.4	21.3	▲ 13.7	43.0	▲ 63.3	17.9	▲ 1.8	▲ 57.6
稲作(都府県)	14.0	37.8	▲ 22.0	▲ 76.7	▲ 6.5	23.8	2.2	▲ 18.8	4.5	▲ 38.5	▲ 60.5
畑作	▲ 21.4	▲ 1.4	▲ 35.8	▲ 13.8	33.9	▲ 24.7	28.1	▲ 27.5	29.0	▲ 37.4	▲ 3.0
露地野菜	▲ 18.1	0.7	8.9	▲ 23.6	5.7	13.1	▲ 0.9	▲ 14.8	▲ 18.4	▲ 36.9	▲ 27.3
施設野菜	▲ 18.2	16.7	9.3	▲ 19.5	15.3	20.3	5.6	▲ 11.8	▲ 27.2	▲ 29.2	▲ 39.3
茶	▲ 44.9	▲ 11.9	▲ 43.8	▲ 59.0	▲ 52.4	8.1	25.8	▲ 16.1	▲ 54.0	▲ 76.3	▲ 5.4
果樹	▲ 12.2	14.2	0.9	▲ 20.3	6.3	19.3	12.0	7.4	▲ 4.9	▲ 25.3	4.9
施設花き	▲ 38.8	▲ 9.7	▲ 8.5	▲ 39.2	▲ 8.1	9.1	▲ 24.6	▲ 22.0	▲ 22.3	▲ 38.2	7.3
きのこ	▲ 46.5	▲ 13.7	7.0	▲ 17.1	11.4	▲ 1.0	▲ 3.8	▲ 24.7	▲ 30.5	4.4	▲ 46.3
酪農(北海道)	▲ 25.9	▲ 3.4	▲ 10.5	▲ 12.6	55.5	57.0	36.8	7.4	17.6	▲ 24.3	▲ 45.9
酪農(都府県)	▲ 27.7	▲ 2.6	▲ 25.4	▲ 34.3	25.4	48.4	1.7	▲ 3.3	▲ 3.6	▲ 14.5	▲ 45.9
肉用牛	▲ 49.9	9.9	20.2	▲ 7.6	50.8	48.6	7.0	▲ 4.1	▲ 7.3	▲ 48.4	▲ 12.3
養豚	▲ 4.2	▲ 38.1	44.9	69.9	50.2	19.1	57.9	▲ 34.9	▲ 7.8	47.0	▲ 43.1
採卵鶏	14.3	▲ 45.6	56.7	31.3	63.0	44.8	31.9	▲ 62.8	▲ 46.0	▲ 40.6	14.7
ブロイラー	▲ 10.9	1.3	▲ 22.4	6.0	42.3	29.1	55.3	4.3	5.4	8.9	▲ 5.2

※収支DIは収支実績が「良くなった」とする構成比から「悪くなった」とする構成比を差し引いたもの

# I. 農業の景況(資金繰りDI、販売単価DI)

- ・資金繰りDI (▲16.3→▲24.7)は前年から8.4ポイント低下した。特に稲作(北海道:▲40.4、都府県:▲41.6)で大幅なマイナス値となった。また、養豚(37.7→▲24.5)は前年から大きく低下(▲62.2ポイント)し、マイナス値となった。他方、果樹(▲11.8→4.2)、施設花き(▲32.9→7.3)では、プラス値に転換した。
- ・販売単価DI(▲42.2→▲42.6)は前年からほぼ横ばいで推移し、依然として大幅なマイナス値となっている。

## 3. 資金繰りDI

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年
農業全体	▲ 3.8	9.8	▲ 0.9	▲ 29.2	7.6	15.5	15.5	▲ 4.7	0.4	▲ 16.3	▲ 24.7
稲作(北海道)	34.5	31.8	▲ 0.7	▲ 52.4	8.2	▲ 2.5	23.8	▲ 30.4	7.9	▲ 1.5	▲ 40.4
稲作(都府県)	10.0	29.2	▲ 6.7	▲ 59.2	▲ 10.7	13.5	7.3	▲ 5.9	4.9	▲ 22.0	▲ 41.6
畑作	▲ 9.7	2.4	▲ 17.0	▲ 10.4	19.9	▲ 3.3	23.3	▲ 5.3	14.7	▲ 15.4	▲ 3.7
露地野菜	▲ 13.2	2.7	7.2	▲ 14.2	2.3	14.2	2.7	▲ 6.4	▲ 13.5	▲ 27.6	▲ 21.3
施設野菜	▲ 6.3	12.7	8.1	▲ 10.6	16.0	19.8	11.5	0.8	▲ 19.3	▲ 25.2	▲ 31.0
茶	▲ 33.0	▲ 16.4	▲ 32.5	▲ 43.7	▲ 41.3	4.3	20.2	▲ 8.0	▲ 40.5	▲ 48.3	▲ 5.3
果樹	▲ 8.7	7.2	1.4	▲ 14.8	1.4	14.7	8.6	8.9	2.0	▲ 11.8	4.2
施設花き	▲ 27.4	▲ 14.7	▲ 9.8	▲ 34.4	▲ 6.8	7.3	▲ 5.9	▲ 6.9	▲ 15.2	▲ 32.9	7.3
きのこ	▲ 39.6	▲ 23.5	0.0	▲ 29.3	10.1	1.0	7.5	▲ 24.7	▲ 29.0	▲ 6.0	▲ 24.7
酪農(北海道)	▲ 15.1	▲ 3.1	▲ 5.0	▲ 6.3	39.2	45.7	36.3	21.1	24.9	▲ 12.0	▲ 30.3
酪農(都府県)	▲ 17.8	1.8	▲ 14.4	▲ 26.2	26.5	42.1	16.4	5.4	1.6	▲ 6.7	▲ 41.9
肉用牛	▲ 26.7	8.1	9.7	▲ 6.1	27.8	34.6	16.9	8.7	0.7	▲ 25.6	▲ 8.4
養豚	▲ 4.2	▲ 26.8	37.1	59.3	45.0	32.4	55.6	▲ 7.1	2.3	37.7	▲ 24.5
採卵鶏	15.6	▲ 24.4	39.0	26.8	56.0	44.8	31.1	▲ 30.2	▲ 28.6	▲ 32.3	15.6
ブロイラー	▲ 4.7	18.4	▲ 16.4	3.0	38.5	29.1	50.0	27.6	17.4	5.0	1.1

※資金繰りDIは資金繰りが「楽になった」とする構成比から「厳しくなった(苦しくなった)」とする構成比を差し引いたもの

## 4. 販売単価DI

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年
農業全体	▲ 12.7	4.5	▲ 11.1	▲ 40.0	13.1	26.1	24.3	2.1	▲ 6.9	▲ 42.2	▲ 42.6
稲作(北海道)	32.9	40.4	▲ 51.9	▲ 88.6	10.1	19.9	54.4	▲ 5.9	▲ 2.4	▲ 48.3	▲ 83.5
稲作(都府県)	25.2	43.3	▲ 58.7	▲ 88.2	7.0	33.4	36.0	16.9	13.4	▲ 64.9	▲ 83.9
畑作	▲ 34.4	▲ 29.7	▲ 36.2	▲ 30.5	▲ 15.4	▲ 3.5	▲ 2.1	▲ 1.9	▲ 8.6	▲ 57.5	▲ 15.5
露地野菜	▲ 32.6	▲ 19.6	17.0	▲ 33.5	▲ 10.0	16.5	▲ 7.8	0.8	▲ 43.1	▲ 42.2	▲ 29.4
施設野菜	▲ 27.3	0.9	▲ 0.4	▲ 32.8	▲ 0.6	26.0	8.7	▲ 11.6	▲ 31.2	▲ 34.4	▲ 43.1
茶	▲ 43.0	▲ 27.9	▲ 62.1	▲ 64.0	▲ 59.4	▲ 1.3	18.1	▲ 41.1	▲ 63.5	▲ 78.0	▲ 5.3
果樹	▲ 15.1	1.9	▲ 1.4	▲ 25.4	10.9	34.9	28.0	15.0	15.7	3.1	16.5
施設花き	▲ 52.0	▲ 27.0	▲ 21.1	▲ 47.0	▲ 15.4	7.3	▲ 28.6	▲ 23.3	▲ 25.3	▲ 48.0	15.2
きのこ	▲ 53.9	▲ 42.2	1.2	▲ 22.0	▲ 6.4	▲ 18.2	▲ 11.3	▲ 39.6	▲ 46.4	▲ 4.5	▲ 55.6
酪農(北海道)	▲ 22.0	37.4	36.0	59.3	85.9	79.3	67.8	47.6	33.0	▲ 37.8	▲ 53.2
酪農(都府県)	▲ 24.0	▲ 2.1	51.7	23.0	61.7	50.7	14.4	17.6	34.2	▲ 23.7	▲ 36.5
肉用牛	▲ 65.4	▲ 4.9	59.0	46.4	85.8	76.4	17.1	20.4	▲ 21.5	▲ 62.6	▲ 4.3
養豚	▲ 22.9	▲ 71.5	70.1	84.1	26.9	▲ 15.1	63.6	▲ 55.0	▲ 24.5	52.8	▲ 21.8
採卵鶏	▲ 11.7	▲ 48.8	82.3	53.6	74.0	▲ 12.0	1.7	▲ 66.7	▲ 53.2	▲ 57.5	32.0
ブロイラー	3.1	▲ 47.4	▲ 22.4	10.4	28.8	▲ 9.7	37.5	▲ 11.6	▲ 28.3	5.1	▲ 1.0

※販売単価DIは生産物の販売価格が「上昇した」とする構成比から「下落した」とする構成比を差し引いたもの

# I. 農業の景況(生産コストDI、雇用状況DI)

- ・生産コストDI(▲68.1)は全業種で低下した。中でも畜産(特に養豚)はマイナス幅の拡大が顕著になった。
- ・雇用状況DI(▲35.6)はマイナス値が続き、労働力不足の状況を示している。

## 5. 生産コストDI

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年
農業全体	▲ 48.6	▲ 50.7	▲ 62.9	▲ 66.3	▲ 44.7	▲ 19.1	▲ 25.2	▲ 37.1	▲ 38.8	▲ 36.2	▲ 68.1
稲作(北海道)	▲ 53.5	▲ 49.7	▲ 63.0	▲ 69.0	▲ 44.1	▲ 24.2	▲ 18.8	▲ 36.9	▲ 40.4	▲ 33.7	▲ 67.5
稲作(都府県)	▲ 40.7	▲ 38.3	▲ 43.6	▲ 53.2	▲ 36.5	▲ 11.5	▲ 11.2	▲ 18.2	▲ 19.3	▲ 30.8	▲ 56.3
畑作	▲ 62.3	▲ 55.8	▲ 70.4	▲ 78.2	▲ 63.7	▲ 32.6	▲ 28.4	▲ 38.5	▲ 45.6	▲ 41.5	▲ 63.2
露地野菜	▲ 55.3	▲ 46.9	▲ 65.1	▲ 67.5	▲ 56.8	▲ 28.9	▲ 40.0	▲ 46.3	▲ 53.1	▲ 44.7	▲ 67.9
施設野菜	▲ 52.4	▲ 52.4	▲ 64.5	▲ 63.4	▲ 41.0	▲ 26.5	▲ 39.9	▲ 49.0	▲ 57.6	▲ 46.0	▲ 78.9
茶	▲ 53.1	▲ 48.4	▲ 68.5	▲ 72.5	▲ 30.1	▲ 11.1	▲ 32.2	▲ 46.7	▲ 51.6	▲ 25.4	▲ 71.7
果樹	▲ 38.1	▲ 44.8	▲ 55.8	▲ 67.0	▲ 48.4	▲ 31.3	▲ 37.3	▲ 39.0	▲ 48.1	▲ 40.2	▲ 55.1
施設花き	▲ 48.9	▲ 53.3	▲ 70.7	▲ 72.8	▲ 33.5	▲ 21.9	▲ 48.6	▲ 53.5	▲ 55.7	▲ 40.2	▲ 87.0
きのこ	▲ 43.1	▲ 40.6	▲ 64.0	▲ 74.4	▲ 43.0	▲ 22.4	▲ 28.8	▲ 59.2	▲ 56.6	▲ 44.8	▲ 76.5
酪農(北海道)	▲ 59.0	▲ 68.8	▲ 81.9	▲ 80.4	▲ 46.4	▲ 4.9	▲ 35.2	▲ 48.2	▲ 37.1	▲ 45.4	▲ 81.0
酪農(都府県)	▲ 53.9	▲ 67.5	▲ 83.5	▲ 83.6	▲ 46.6	▲ 0.7	▲ 32.9	▲ 40.4	▲ 46.6	▲ 38.5	▲ 81.4
肉用牛	▲ 38.0	▲ 65.7	▲ 83.1	▲ 81.9	▲ 63.1	▲ 37.3	▲ 41.3	▲ 46.7	▲ 37.4	▲ 30.9	▲ 80.8
養豚	▲ 48.7	▲ 65.9	▲ 69.6	▲ 59.8	▲ 17.7	16.9	12.1	▲ 37.0	▲ 24.7	▲ 19.1	▲ 85.7
採卵鶏	▲ 31.2	▲ 61.9	▲ 79.9	▲ 78.6	▲ 32.0	11.2	▲ 12.0	▲ 49.6	▲ 46.9	▲ 41.7	▲ 83.4
ブロイラー	▲ 42.2	▲ 42.1	▲ 76.1	▲ 59.7	▲ 44.2	▲ 4.8	▲ 16.1	▲ 23.2	▲ 28.0	▲ 20.3	▲ 63.2

※生産コストDIは生産の費用(コスト)が「下がった」とする構成比から「上がった(コスト増)」とする構成比を差し引いたもの

## 6. 雇用状況DI

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年
農業全体	-	-	-	-	▲ 26.3	▲ 33.6	▲ 36.8	▲ 34.7	▲ 34.9	▲ 32.0	▲ 35.6
稲作(北海道)	-	-	-	-	▲ 26.7	▲ 35.6	▲ 39.0	▲ 41.2	▲ 36.9	▲ 38.4	▲ 36.4
稲作(都府県)	-	-	-	-	▲ 18.8	▲ 27.3	▲ 27.8	▲ 27.6	▲ 29.5	▲ 28.4	▲ 29.7
畑作	-	-	-	-	▲ 33.6	▲ 40.8	▲ 45.0	▲ 40.9	▲ 42.7	▲ 37.5	▲ 41.2
露地野菜	-	-	-	-	▲ 34.9	▲ 41.5	▲ 43.4	▲ 36.7	▲ 38.2	▲ 36.2	▲ 39.0
施設野菜	-	-	-	-	▲ 24.1	▲ 30.8	▲ 33.0	▲ 30.9	▲ 30.1	▲ 24.9	▲ 34.6
茶	-	-	-	-	▲ 26.6	▲ 30.8	▲ 37.7	▲ 40.7	▲ 39.5	▲ 29.7	▲ 36.3
果樹	-	-	-	-	▲ 25.6	▲ 32.0	▲ 36.8	▲ 36.9	▲ 36.0	▲ 31.6	▲ 37.4
施設花き	-	-	-	-	▲ 26.8	▲ 31.6	▲ 34.4	▲ 31.8	▲ 29.9	▲ 26.7	▲ 41.0
きのこ	-	-	-	-	▲ 26.6	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 42.0	▲ 42.0	▲ 34.9	▲ 49.4
酪農(北海道)	-	-	-	-	▲ 40.4	▲ 45.0	▲ 52.5	▲ 44.1	▲ 38.7	▲ 31.9	▲ 42.1
酪農(都府県)	-	-	-	-	▲ 25.8	▲ 28.0	▲ 27.6	▲ 26.3	▲ 35.3	▲ 27.5	▲ 35.9
肉用牛	-	-	-	-	▲ 24.7	▲ 28.7	▲ 34.3	▲ 32.4	▲ 32.9	▲ 33.2	▲ 31.6
養豚	-	-	-	-	▲ 35.6	▲ 44.5	▲ 44.3	▲ 32.7	▲ 29.8	▲ 26.3	▲ 36.0
採卵鶏	-	-	-	-	▲ 31.0	▲ 43.2	▲ 47.4	▲ 41.1	▲ 38.9	▲ 33.3	▲ 41.8
ブロイラー	-	-	-	-	▲ 15.4	▲ 21.4	▲ 36.4	▲ 25.0	▲ 37.4	▲ 21.8	▲ 34.7

※雇用状況DIは雇用状況の実績が「過剰である」とする構成比から「不足である」とする構成比を差し引いたもの

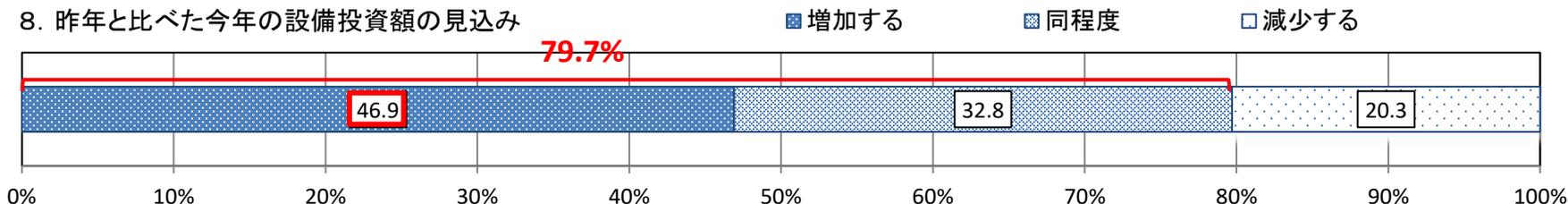
# I. 農業の景況(設備投資ありの比率、設備投資額)

- ・「設備投資予定あり」の比率(46.1%→46.3%)は、前年から0.2ポイント上昇し、高い水準が続いている。
- ・「設備投資予定あり」と回答した先のうち、46.9%が昨年に比べ設備投資額が「増加する」と回答しており、担い手農業者の設備投資に対する積極的な姿勢がうかがえる。

## 7. 設備投資予定ありの比率

	24年 当初計画	25年 当初計画	26年 当初計画	27年 当初計画	28年 当初計画	29年 当初計画	30年 当初計画	R1年 当初計画	R2年 当初計画	R3年 当初計画	R4年 当初計画
農業全体	37.3	42.0	39.5	34.5	43.6	51.8	46.6	44.3	44.3	46.1	46.3
稲作(北海道)	45.3	48.8	39.7	26.1	44.1	48.6	45.2	41.0	43.2	42.3	41.1
稲作(都府県)	45.7	50.9	46.1	32.5	45.1	53.5	49.8	47.0	49.1	51.2	49.1
畑作	40.3	46.6	37.6	37.2	50.1	54.1	53.2	49.7	53.1	52.7	54.0
露地野菜	36.8	41.3	41.1	34.8	41.9	50.8	44.6	43.8	38.1	43.1	43.2
施設野菜	34.9	36.8	35.8	34.6	38.6	46.3	40.2	38.0	33.3	35.7	38.2
茶	31.1	35.9	32.2	30.3	28.2	45.7	40.5	40.7	31.2	35.1	36.6
果樹	30.3	39.9	33.6	31.7	38.2	45.5	33.5	35.2	34.2	42.4	49.0
施設花き	29.9	29.4	27.7	26.3	28.1	41.1	30.8	28.8	35.4	38.4	45.5
きのこ	25.5	28.7	43.0	36.6	44.9	47.3	43.2	51.9	36.8	50.7	56.8
酪農(北海道)	24.7	32.0	27.8	36.4	42.0	53.7	46.1	44.3	43.7	40.8	38.6
酪農(都府県)	34.0	34.3	35.9	42.8	38.3	58.0	49.4	48.4	42.2	45.1	44.6
肉用牛	30.8	37.8	36.5	41.1	49.9	56.8	46.2	45.1	48.5	42.0	48.6
養豚	38.4	36.2	49.3	55.9	54.4	62.1	58.0	45.5	50.2	54.0	51.2
採卵鶏	38.3	27.8	39.8	46.5	54.0	61.3	61.2	44.2	52.4	56.8	44.7
ブロイラー	39.1	43.4	38.8	47.8	55.8	59.7	51.8	55.1	58.7	49.4	49.0

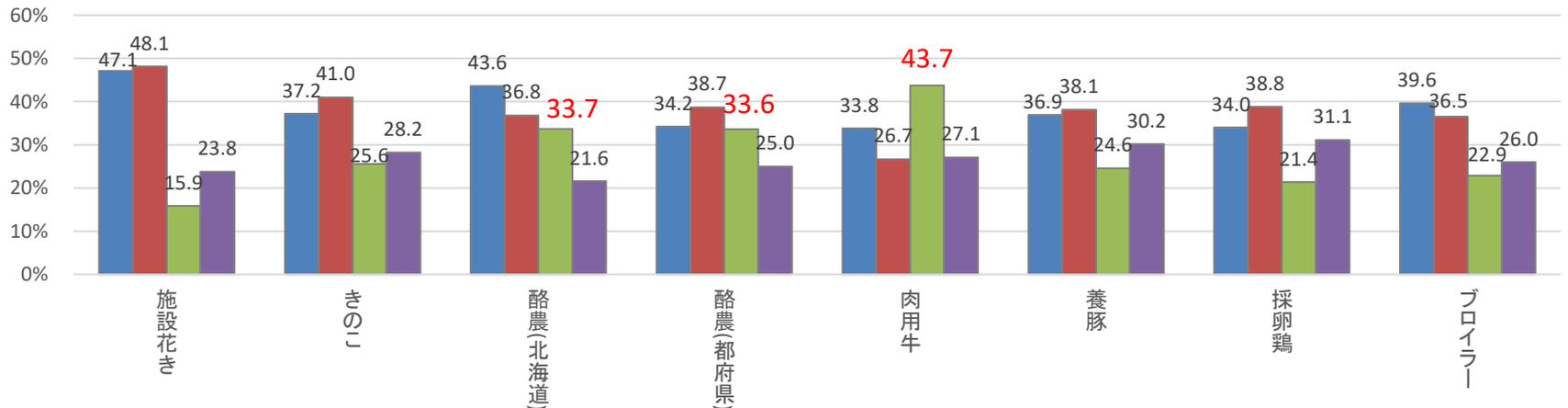
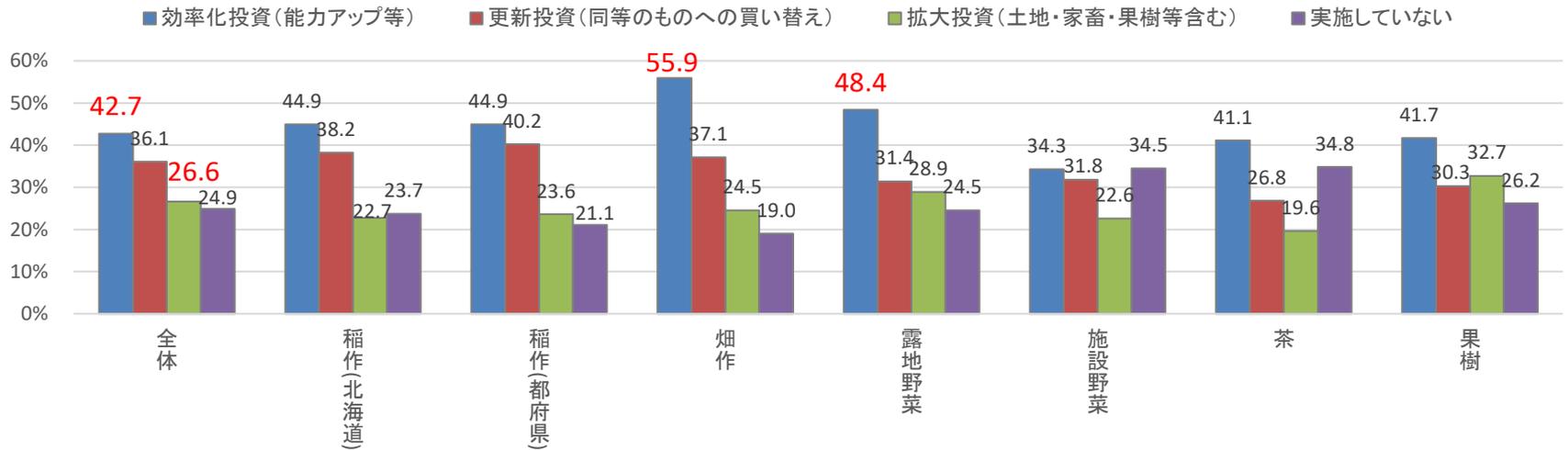
## 8. 昨年と比べた今年の設備投資額の見込み



# I. 農業の景況(昨年どのような投資を実施したか)

- ・昨年(令和3年)に実施した投資は「効率化投資」(42.7%)が最も高くなった。また、特に畑作、露地野菜では、同回答の割合が高くなった。
- ・肉用牛、酪農では、「拡大投資」の回答割合が他業種に比べて高くなった。

※複数選択可



# I. 農業の景況(天気図)

業種	令和2年実績	令和3年実績	令和4年見通し	業種	令和2年実績	令和3年実績	令和4年見通し
農業全体	24.9	29.6	28.7	施設花き	40.2	5.8	4.2
稲作(北海道)	3.6	55.2	66.8	きのこ	3.0	40.8	25.0
稲作(都府県)	33.4	55.9	39.9	酪農(北海道)	19.3	32.8	54.7
畑作	32.3	0.2	19.8	酪農(都府県)	16.4	39.5	47.1
露地野菜	32.8	21.4	11.5	肉用牛	43.9	3.1	12.0
施設野菜	28.1	32.3	12.0	養豚	44.3	36.4	43.0
茶	78.0	0.9	10.7	採卵鶏	43.8	22.6	58.3
果樹	16.8	11.9	15.3	ブロイラー	6.4	2.1	20.4

調査様式  
農業経営の業況は  
1:良くなった 2:変わらない 3:悪くなった

今年(令和4年)の経営見通しは  
1:良くなる 2:変わらない 3:悪くなる

(注1) DI(Diffusion Index = 動向指数)について  
DIは、前年と比較して、「良くなった」の  
構成比から「悪くなった」の構成比を  
差し引いたもの。

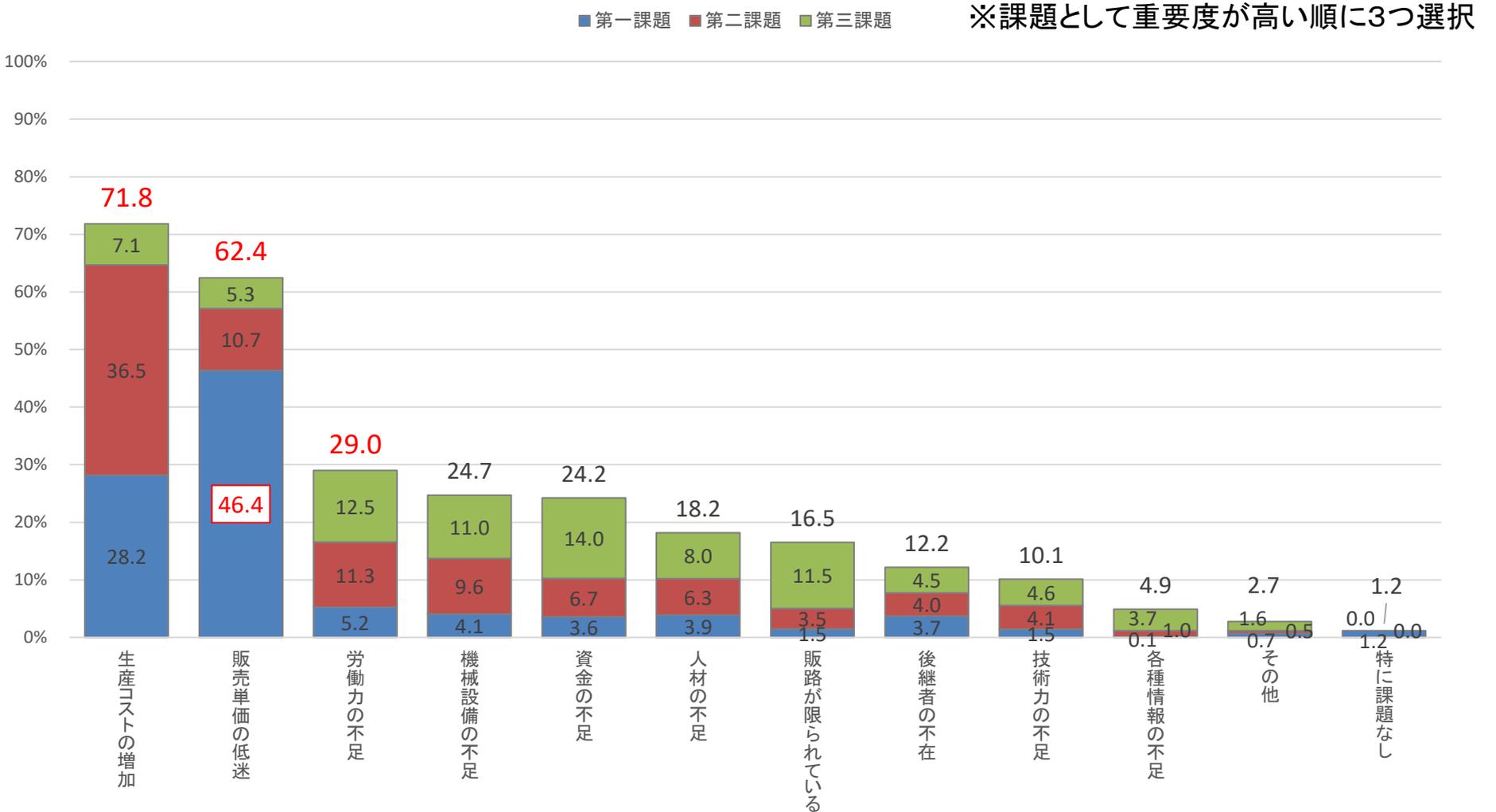
(注2) DI値に2.5以上の差異がある場合は  
上向き又は下向き矢印。2.4以内の場合は  
平行矢印。

(凡例)

$\leq -50 <$   $\leq -20 <$   $\leq -5$   
 $<$   $< 5 \leq$   $< 20 \leq$

## II. 経営が現在抱えている課題(全体)

- ・農業経営の課題(第1課題から第3課題までの積み上げ)は、「生産コストの増加」(71.8%)が最も高く、次いで「販売単価の低迷」(62.4%)、「労働力の不足」(29.0%)となった。
- ・最も重要な課題(第1課題)としては、「販売単価の低迷」(46.4%)の割合が最も高くなった。



## Ⅱ. 経営が現在抱えている課題(業種別、耕種)

※各業種、上位3位までを赤字表記

- ・稲作では「販売単価の低迷」(北海道:90.6%、都府県:83.5%)が最も高くなった。
- ・果樹では「労働力の不足」(49.6%)、「資金の不足」(29.1%)が他業種と比べて高くなった。

業種	項目	生産コストの増加	販売単価の低迷	労働力の不足	機械設備の不足	資金の不足	人材の不足	販路が限られている	後継者の不在	技術力の不足	各種情報の不足	その他	特に課題なし
農業全体	第一課題	28.2	46.4	5.2	4.1	3.6	3.9	1.5	3.7	1.5	0.1	0.7	1.2
	第二課題	36.5	10.7	11.3	9.6	6.7	6.3	3.5	4.0	4.1	1.0	0.5	0.0
	第三課題	7.1	5.3	12.5	11.0	14.0	8.0	11.5	4.5	4.6	3.7	1.6	0.0
	合計	71.8	62.4	29.0	24.7	24.2	18.2	16.5	12.2	10.1	4.9	2.7	1.2
稲作(北海道)	第一課題	9.6	79.2	1.7	2.1	1.5	1.1	0.3	3.1	0.4	0.0	0.8	0.1
	第二課題	55.6	7.3	6.9	9.4	5.4	2.8	2.0	4.6	1.5	0.8	0.7	0.0
	第三課題	8.6	4.1	14.1	17.7	13.9	4.2	8.3	6.1	2.3	5.2	1.3	0.0
	合計	73.8	90.6	22.7	29.3	20.8	8.2	10.6	13.8	4.2	6.1	2.8	0.1
稲作(都府県)	第一課題	8.9	72.2	2.5	3.9	3.4	2.0	1.3	3.7	0.7	0.1	0.3	0.9
	第二課題	45.0	7.7	7.4	10.1	5.9	4.5	4.0	6.5	3.8	0.7	0.2	0.0
	第三課題	6.8	3.5	10.1	12.0	16.2	6.5	16.3	6.3	4.1	3.7	1.6	0.0
	合計	60.8	83.5	20.0	26.1	25.5	13.1	21.7	16.6	8.6	4.5	2.2	0.9
畑作	第一課題	36.8	35.3	5.5	7.2	2.8	3.0	1.5	4.3	1.0	0.3	1.5	0.7
	第二課題	36.3	12.9	11.5	11.9	6.9	4.8	2.2	3.3	2.7	2.2	0.7	0.0
	第三課題	5.9	7.9	16.1	16.6	10.0	5.2	11.9	4.8	4.0	4.2	1.7	0.0
	合計	78.9	56.0	33.1	35.6	19.7	13.0	15.6	12.5	7.7	6.7	3.8	0.7
露地野菜	第一課題	24.9	43.2	6.3	5.3	4.4	6.0	2.2	3.5	2.1	0.3	0.9	0.7
	第二課題	38.5	9.9	13.7	10.0	6.2	7.2	3.2	2.4	3.2	1.2	0.3	0.0
	第三課題	8.4	7.7	14.3	10.0	14.7	8.1	12.1	3.1	4.6	2.8	1.8	0.0
	合計	71.8	60.8	34.4	25.4	25.4	21.4	17.6	9.0	9.9	4.3	2.9	0.7
施設野菜	第一課題	26.4	45.3	6.9	3.1	3.5	5.9	2.0	3.3	2.1	0.0	0.7	0.8
	第二課題	40.5	10.4	11.5	6.9	8.1	4.6	4.6	1.5	5.6	1.5	0.5	0.0
	第三課題	8.7	5.1	13.7	6.6	14.7	7.9	12.2	2.6	6.9	4.9	1.3	0.0
	合計	75.6	60.8	32.1	16.6	26.2	18.5	18.8	7.4	14.7	6.4	2.5	0.8
茶	第一課題	26.4	47.3	8.2	2.7	3.6	0.9	2.7	4.5	1.8	0.9	0.0	0.9
	第二課題	34.5	13.6	11.8	7.3	6.4	7.3	6.4	1.8	0.9	1.8	1.8	0.0
	第三課題	5.5	4.5	11.8	6.4	10.0	10.9	21.8	3.6	5.5	0.0	0.9	0.0
	合計	66.4	65.5	31.8	16.4	20.0	19.1	30.9	10.0	8.2	2.7	2.7	0.9
果樹	第一課題	33.4	10.4	13.3	10.1	6.9	6.9	3.2	8.1	4.6	0.6	0.9	1.7
	第二課題	17.3	3.2	22.5	9.5	8.4	11.8	5.5	5.5	7.5	0.6	0.6	0.0
	第三課題	8.4	3.7	13.8	6.6	13.8	8.9	10.7	4.6	6.3	2.9	1.7	0.0
	合計	59.1	17.3	49.6	26.2	29.1	27.7	19.3	18.2	18.4	4.0	3.2	1.7
施設花き	第一課題	48.1	27.0	6.9	1.6	5.3	4.2	0.0	2.6	2.1	0.0	0.0	2.1
	第二課題	30.2	9.0	14.8	8.5	6.9	9.0	4.8	3.7	5.3	1.1	0.0	0.0
	第三課題	6.3	6.3	18.5	7.9	11.1	11.6	7.4	5.8	3.7	2.6	2.1	0.0
	合計	84.7	42.3	40.2	18.0	23.3	24.9	12.2	12.2	11.1	3.7	2.1	2.1
きのこ	第一課題	37.5	40.0	6.3	2.5	2.5	7.5	1.3	0.0	1.3	0.0	1.3	0.0
	第二課題	27.5	13.8	12.5	12.5	7.5	11.3	2.5	1.3	5.0	1.3	1.3	0.0
	第三課題	5.0	7.5	21.3	7.5	5.0	15.0	12.5	3.8	1.3	5.0	1.3	0.0
	合計	70.0	61.3	40.0	22.5	15.0	33.8	16.3	5.0	7.5	6.3	3.8	0.0

## Ⅱ. 経営が現在抱えている課題(業種別、畜産)

※各業種、上位3位までを赤字表記

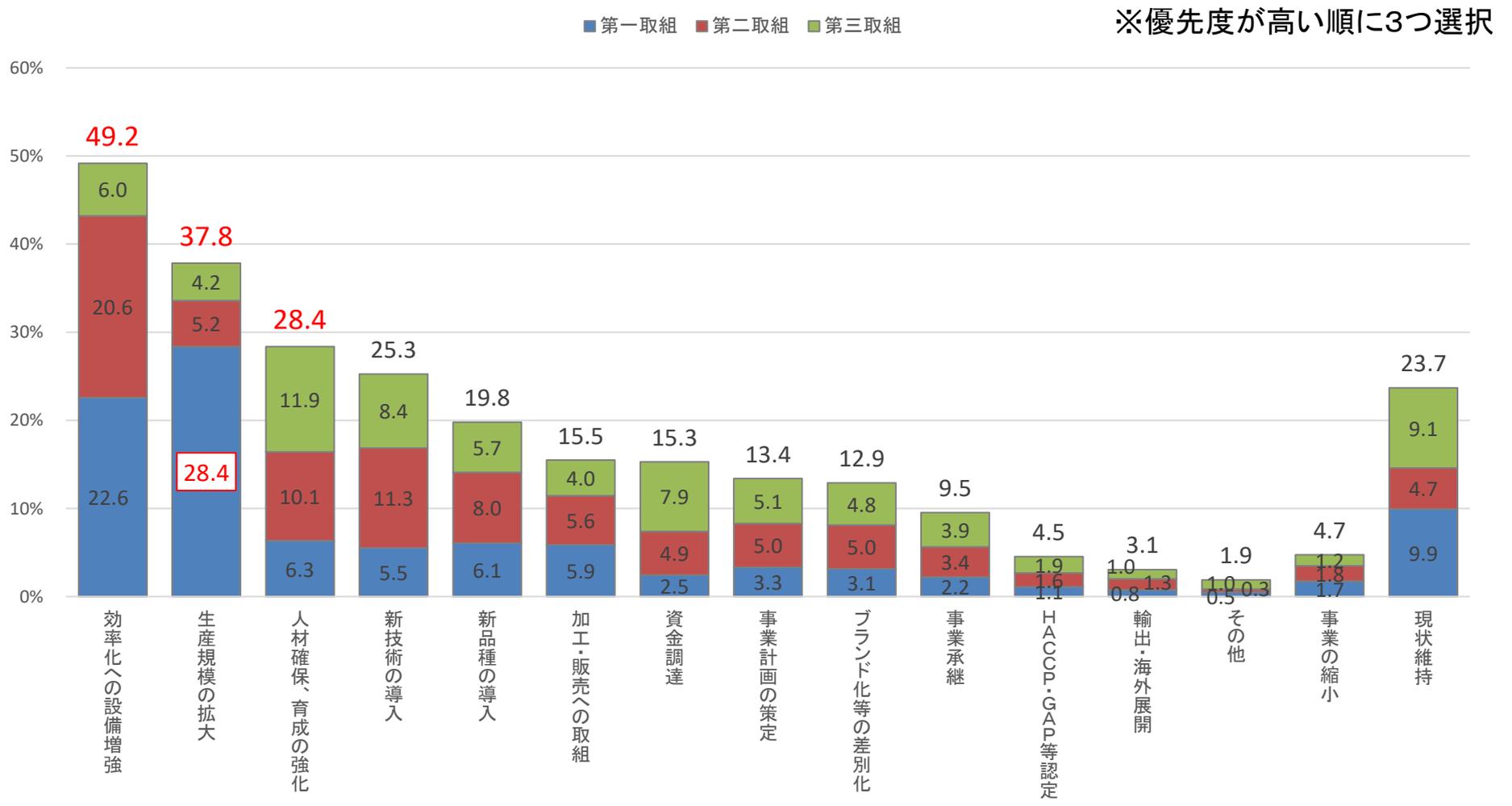
- ・全ての業種で「生産コストの増加」が最も高くなった。
- ・酪農(都府県)、肉用牛では、「資金の不足」が他業種に比べて高くなった。
- ・採卵鶏、ブロイラーでは、「人材の不足」が3番目となり、他業種に比べて高い位置づけにある。

業種	項目	生産コストの増加	販売単価の低迷	労働力の不足	機械設備の不足	資金の不足	人材の不足	販路が限られている	後継者の不在	技術力の不足	各種情報の不足	その他	特に課題なし
農業全体	第一課題	28.2	46.4	5.2	4.1	3.6	3.9	1.5	3.7	1.5	0.1	0.7	1.2
	第二課題	36.5	10.7	11.3	9.6	6.7	6.3	3.5	4.0	4.1	1.0	0.5	0.0
	第三課題	7.1	5.3	12.5	11.0	14.0	8.0	11.5	4.5	4.6	3.7	1.6	0.0
	合計	71.8	62.4	29.0	24.7	24.2	18.2	16.5	12.2	10.1	4.9	2.7	1.2
酪農(北海道)	第一課題	47.2	22.6	8.0	2.1	3.8	5.2	1.0	4.9	1.4	0.0	1.4	2.4
	第二課題	27.1	24.0	11.1	9.0	6.3	6.3	2.1	3.8	4.5	0.3	1.4	0.0
	第三課題	8.3	7.6	14.2	9.7	15.3	11.1	5.2	3.8	5.6	1.4	1.0	0.0
	合計	82.6	54.2	33.3	20.8	25.3	22.6	8.3	12.5	11.5	1.7	3.8	2.4
酪農(都府県)	第一課題	56.8	26.9	4.8	2.4	4.1	1.4	0.3	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0
	第二課題	28.6	23.5	11.2	9.9	8.8	5.8	0.3	2.0	3.7	0.3	0.3	0.0
	第三課題	3.7	6.5	11.2	15.6	18.0	7.8	7.1	2.0	5.4	1.7	1.7	0.0
	合計	89.1	56.8	27.2	27.9	31.0	15.0	7.8	5.8	10.9	2.0	2.0	0.0
肉用牛	第一課題	50.9	23.5	3.5	4.5	5.2	3.5	1.2	3.1	0.8	0.2	0.4	3.1
	第二課題	25.4	12.4	12.8	10.3	9.3	7.0	3.1	3.7	4.3	0.8	0.4	0.0
	第三課題	4.7	7.2	10.1	11.5	16.9	7.2	6.6	3.1	4.9	3.3	0.6	0.0
	合計	81.0	43.1	26.4	26.4	31.3	17.7	10.9	9.9	10.1	4.3	1.4	3.1
養豚	第一課題	67.7	15.5	6.4	2.4	0.8	4.0	0.4	0.8	0.4	0.0	0.4	1.2
	第二課題	17.1	17.5	13.9	8.8	5.6	12.7	2.8	3.6	5.2	1.2	0.4	0.0
	第三課題	3.2	8.0	10.4	3.6	10.4	12.4	7.2	2.4	7.2	4.8	2.4	0.0
	合計	88.0	41.0	30.7	14.7	16.7	29.1	10.4	6.8	12.7	6.0	3.2	1.2
採卵鶏	第一課題	53.4	25.2	7.8	1.9	1.9	3.9	2.9	1.0	1.9	0.0	0.0	0.0
	第二課題	26.2	19.4	13.6	4.9	4.9	12.6	3.9	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0
	第三課題	8.7	4.9	7.8	4.9	8.7	16.5	11.7	3.9	1.0	1.9	1.0	0.0
	合計	88.3	49.5	29.1	11.7	15.5	33.0	18.4	4.9	5.8	1.9	1.0	0.0
ブロイラー	第一課題	43.9	12.2	10.2	4.1	3.1	5.1	1.0	5.1	5.1	1.0	2.0	7.1
	第二課題	12.2	6.1	13.3	10.2	6.1	9.2	7.1	1.0	9.2	2.0	1.0	0.0
	第三課題	5.1	2.0	5.1	7.1	8.2	12.2	7.1	0.0	6.1	3.1	2.0	0.0
	合計	61.2	20.4	28.6	21.4	17.3	26.5	15.3	6.1	20.4	6.1	5.1	7.1

### Ⅲ. 経営課題の解決に向けた取組み

・経営課題の解決に向けた取組み(第1取組から第3取組までの積み上げ)は、「効率化への設備増強」(49.2%)が最も高く、次いで「生産規模の拡大」(37.8%)、「人材確保、育成の強化」(28.4%)となった。

・最優先する取組み(第1取組)としては、「生産規模の拡大」(28.4%)の割合が最も高くなった。



### Ⅲ. 経営課題の解決に向けた取組み(業種別、耕種)

※各業種、上位3位までを赤字表記

- ・全ての業種で「効率化への設備増強」が最も高くなった。
- ・稲作(北海道)および畑作では、「新技術の導入」が他業種と比べて高くなった。
- ・果樹、施設花きでは、「新品種の導入」が他業種と比べて高くなった。

業種	項目	効率化への設備増強	生産規模の拡大	人材確保、育成の強化	新技術の導入	新品種の導入	加工・販売への取組	資金調達	事業計画の策定	ブランド化等の差別化	事業承継	HACCP・GAP等認定	輸出・海外展開	その他	事業の縮小	現状維持
農業全体	第一取組	22.6	28.4	6.3	5.5	6.1	5.9	2.5	3.3	3.1	2.2	1.1	0.8	0.5	1.7	9.9
	第二取組	20.6	5.2	10.1	11.3	8.0	5.6	4.9	5.0	5.0	3.4	1.6	1.3	0.3	1.8	4.7
	第三取組	6.0	4.2	11.9	8.4	5.7	4.0	7.9	5.1	4.8	3.9	1.9	1.0	1.0	1.2	9.1
	合計	49.2	37.8	28.4	25.3	19.8	15.5	15.3	13.4	12.9	9.5	4.5	3.1	1.9	4.7	23.7
稲作(北海道)	第一取組	21.9	33.9	2.0	6.6	3.4	3.7	1.5	3.5	2.3	2.0	0.3	1.7	0.6	2.3	14.5
	第二取組	22.9	4.5	5.3	17.0	5.5	5.9	5.3	6.2	2.8	3.0	0.7	1.3	0.3	2.1	5.6
	第三取組	5.1	4.1	7.9	13.2	6.6	3.9	7.0	6.0	2.8	2.4	0.8	1.3	1.1	1.1	10.4
	合計	49.9	42.5	15.2	36.8	15.5	13.5	13.9	15.8	7.9	7.3	1.8	4.2	2.0	5.5	30.5
稲作(都府県)	第一取組	21.9	33.9	4.0	5.1	6.2	5.9	2.3	3.4	2.7	2.6	0.9	0.5	0.4	0.9	9.4
	第二取組	23.5	5.4	9.0	10.6	8.2	6.5	4.8	5.3	4.2	3.6	1.1	1.5	0.5	1.3	3.4
	第三取組	6.4	4.4	11.6	9.6	6.2	4.7	7.4	5.2	4.9	4.5	1.9	1.0	0.9	1.3	8.3
	合計	51.9	43.7	24.6	25.3	20.7	17.2	14.6	13.8	11.9	10.8	3.9	2.9	1.7	3.5	21.0
畑作	第一取組	27.8	33.9	3.5	9.0	5.2	3.3	2.2	3.7	0.3	0.7	0.3	0.0	0.3	1.7	8.2
	第二取組	26.3	7.5	4.8	18.0	9.8	4.0	4.5	2.8	3.0	3.2	1.3	1.2	0.5	1.2	4.3
	第三取組	4.8	5.3	9.8	13.6	7.7	3.8	7.8	6.8	4.5	4.2	1.2	0.2	1.2	1.0	8.7
	合計	58.9	46.8	18.1	40.6	22.6	11.1	14.5	13.3	7.8	8.0	2.8	1.3	2.0	3.8	21.1
露地野菜	第一取組	23.1	29.8	7.9	4.9	4.7	5.9	2.5	3.0	2.4	2.5	1.3	0.1	0.3	3.1	8.3
	第二取組	21.5	5.5	11.9	11.6	10.7	7.3	2.8	3.3	4.6	3.1	2.1	0.6	0.1	3.1	4.5
	第三取組	6.2	6.4	11.9	7.7	7.6	4.6	8.5	5.2	4.9	3.1	1.9	1.2	1.5	1.6	9.8
	合計	50.9	41.7	31.6	24.2	23.0	17.8	13.8	11.4	11.9	8.8	5.3	1.9	1.9	7.9	22.6
施設野菜	第一取組	17.5	17.8	9.1	8.6	10.4	8.3	1.8	3.1	6.3	2.3	1.3	1.3	0.5	1.2	10.6
	第二取組	16.0	3.5	11.6	10.1	11.4	5.9	6.6	4.8	7.3	2.1	2.3	0.7	0.5	2.3	5.0
	第三取組	5.1	4.1	13.5	5.4	6.3	4.3	7.6	4.3	5.4	2.5	2.3	0.8	1.2	1.5	11.1
	合計	38.6	25.4	34.2	24.1	28.1	18.5	16.0	12.2	19.0	6.9	5.9	2.8	2.1	5.0	26.6
茶	第一取組	19.1	22.7	3.6	0.9	7.3	20.0	2.7	0.9	3.6	2.7	1.8	4.5	0.0	2.7	7.3
	第二取組	14.5	3.6	10.9	4.5	18.2	5.5	1.8	7.3	3.6	3.6	10.0	5.5	0.0	0.9	1.8
	第三取組	6.4	3.6	5.5	2.7	6.4	3.6	7.3	3.6	7.3	2.7	9.1	1.8	0.9	1.8	16.4
	合計	40.0	30.0	20.0	8.2	31.8	29.1	11.8	11.8	14.5	9.1	20.9	11.8	0.9	5.5	25.5
果樹	第一取組	22.6	20.9	7.5	6.1	14.2	9.0	2.3	1.4	3.8	1.2	0.6	0.3	0.9	2.9	6.4
	第二取組	13.9	3.5	12.8	9.9	13.3	7.2	3.8	4.6	9.3	4.3	0.6	2.0	0.3	0.9	4.6
	第三取組	5.5	3.5	15.4	5.2	9.6	6.4	5.5	4.3	9.0	5.2	1.7	1.2	0.9	2.6	6.1
	合計	42.0	27.8	35.7	21.2	37.1	22.6	11.6	10.4	22.0	10.7	2.9	3.5	2.0	6.4	17.1
施設花き	第一取組	22.6	17.9	6.3	4.7	19.5	5.3	2.6	2.1	7.9	1.6	0.0	1.1	0.0	1.6	6.8
	第二取組	15.8	3.2	12.6	8.9	16.3	5.3	3.7	4.7	13.2	1.1	0.0	0.0	0.0	3.2	4.2
	第三取組	7.9	3.7	10.0	8.4	8.9	2.1	6.8	8.4	7.4	3.7	0.0	1.1	1.1	2.1	10.0
	合計	46.3	24.7	28.9	22.1	44.7	12.6	13.2	15.3	28.4	6.3	0.0	2.1	1.1	6.8	21.1
きのこ	第一取組	27.5	17.5	8.8	1.3	5.0	15.0	5.0	3.8	2.5	0.0	2.5	1.3	0.0	3.8	6.3
	第二取組	16.3	3.8	7.5	12.5	10.0	8.8	8.8	5.0	7.5	2.5	3.8	1.3	0.0	0.0	5.0
	第三取組	1.3	1.3	22.5	3.8	7.5	2.5	5.0	2.5	6.3	5.0	1.3	3.8	1.3	2.5	10.0
	合計	45.0	22.5	38.8	17.5	22.5	26.3	18.8	11.3	16.3	7.5	7.5	6.3	1.3	6.3	21.3

### Ⅲ. 経営課題の解決に向けた取組み(業種別、畜産)

※各業種、上位3位までを赤字表記

- ・全ての業種で「効率化への設備増強」が最も高くなった。
- ・採卵鶏では、「加工・販売への取組み」が他業種と比べて高くなった。
- ・酪農(都府県)、ブロイラーでは、「現状維持」が他の選択肢と比べて高くなった。

業種	項目	効率化への設備増強	生産規模の拡大	人材確保、育成の強化	新技術の導入	新品種の導入	加工・販売への取組	資金調達	事業計画の策定	ブランド化等の差別化	事業承継	HACCP・GAP等認定	輸出・海外展開	その他	事業の縮小	現状維持
農業全体	第一取組	22.6	28.4	6.3	5.5	6.1	5.9	2.5	3.3	3.1	2.2	1.1	0.8	0.5	1.7	9.9
	第二取組	20.6	5.2	10.1	11.3	8.0	5.6	4.9	5.0	5.0	3.4	1.6	1.3	0.3	1.8	4.7
	第三取組	6.0	4.2	11.9	8.4	5.7	4.0	7.9	5.1	4.8	3.9	1.9	1.0	1.0	1.2	9.1
	合計	49.2	37.8	28.4	25.3	19.8	15.5	15.3	13.4	12.9	9.5	4.5	3.1	1.9	4.7	23.7
酪農(北海道)	第一取組	25.5	24.5	8.4	6.6	1.0	2.1	1.7	5.6	2.1	2.8	1.0	0.0	0.7	4.2	13.6
	第二取組	20.6	4.5	15.0	11.9	0.7	1.0	3.1	8.0	3.5	4.9	0.0	0.3	0.0	2.8	8.0
	第三取組	6.3	3.8	12.6	8.0	1.0	1.4	8.0	6.3	1.0	7.3	2.1	0.0	2.8	0.7	9.4
	合計	52.4	32.9	36.0	26.6	2.8	4.5	12.9	19.9	6.6	15.0	3.1	0.3	3.5	7.7	31.1
酪農(都府県)	第一取組	23.5	26.9	7.8	3.7	2.4	3.7	5.1	3.4	0.3	3.1	2.0	0.0	0.7	1.4	16.0
	第二取組	17.3	7.1	10.2	11.6	1.4	3.1	8.5	7.5	0.7	3.7	0.3	0.3	1.0	1.4	8.5
	第三取組	5.4	3.4	11.9	6.1	1.7	2.7	8.8	4.4	1.4	5.1	0.7	0.0	1.4	0.7	12.6
	合計	46.3	37.4	29.9	21.4	5.4	9.5	22.4	15.3	2.4	11.9	3.1	0.3	3.1	3.4	37.1
肉用牛	第一取組	22.4	32.2	6.9	3.6	2.3	2.3	3.8	3.6	6.1	2.3	2.1	0.8	0.4	2.3	9.0
	第二取組	21.8	6.7	9.2	9.4	2.9	2.5	6.7	5.4	5.6	5.0	2.1	2.1	0.0	1.7	5.2
	第三取組	6.1	3.1	10.5	4.2	2.9	2.1	14.6	3.8	4.6	4.0	1.3	1.7	0.8	0.8	10.7
	合計	50.2	42.1	26.6	17.2	8.2	6.9	25.1	12.8	16.3	11.3	5.4	4.6	1.3	4.8	24.9
養豚	第一取組	26.9	21.3	11.6	3.6	3.2	4.8	2.4	2.4	4.0	1.6	4.0	0.0	1.2	0.8	12.0
	第二取組	17.7	7.2	18.1	7.2	3.6	2.8	6.0	3.6	5.2	2.4	4.8	0.0	0.0	0.4	5.2
	第三取組	6.0	2.0	16.5	8.4	1.6	4.8	7.2	2.8	5.2	4.8	4.0	1.2	0.4	0.8	4.8
	合計	50.6	30.5	46.2	19.3	8.4	12.4	15.7	8.8	14.5	8.8	12.9	1.2	1.6	2.0	22.1
採卵鶏	第一取組	19.6	13.7	12.7	2.0	2.9	21.6	1.0	2.9	3.9	1.0	2.9	2.0	2.0	2.0	9.8
	第二取組	17.6	4.9	8.8	4.9	2.0	7.8	3.9	6.9	9.8	2.9	5.9	4.9	1.0	1.0	1.0
	第三取組	6.9	1.0	20.6	5.9	0.0	6.9	2.9	2.0	7.8	1.0	4.9	2.9	0.0	0.0	6.9
	合計	44.1	19.6	42.2	12.7	4.9	36.3	7.8	11.8	21.6	4.9	13.7	9.8	2.9	2.9	17.6
ブロイラー	第一取組	34.0	11.7	8.5	6.4	2.1	3.2	2.1	5.3	1.1	4.3	3.2	0.0	1.1	1.1	16.0
	第二取組	13.8	2.1	17.0	13.8	1.1	1.1	5.3	3.2	2.1	5.3	0.0	1.1	0.0	0.0	7.4
	第三取組	6.4	8.5	11.7	5.3	0.0	2.1	7.4	5.3	1.1	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	5.3
	合計	54.3	22.3	37.2	25.5	3.2	6.4	14.9	13.8	4.3	9.6	4.3	1.1	1.1	1.1	28.7

# IV. 経営課題の解決に向けた取組みの相談先

・経営課題の解決に向けた取組みの相談先は「JA(農協)関係」(60.8%)が最も多くなった。次いで「県・普及・市町村」(28.2%)、「日本政策金融公庫」(27.1%)となった。

